

2026 年 9 月 3 日
株式会社ゼンリン

「不動産 DX カンファレンス 2026」に出展

地理空間情報と AI を組み合わせた 高度な不動産用地探索の構想を初公開

株式会社ゼンリン(本社:福岡県北九州市、代表取締役社長:竹川道郎、以下ゼンリン)は、2026年9月11日(金)に東京ミッドタウン・ホールで開催される「不動産 DX カンファレンス2026」に出展します。

本展示会では、不動産デベロッパーの用地取得・選定を支援する、地理空間情報と AI を組み合わせた高度な不動産用地探索の構想を初公開します。ゼンリンの地理空間情報と、不動産デベロッパーが保有する用地情報を組み合わせ、隣接地も含めた開発候補地の検討を支援します。

■ 出展内容: AI を活用した不動産用地探索

利用者が保有する用地情報と、ゼンリンの地理空間情報などを組み合わせ、AI を活用することで、対象地だけではなく隣接する土地・建物も含めた開発の可能性を評価します。

エリア・規模・用途などの条件に応じて候補用地を探索し、隣接地の空き家状況や築年数などを踏まえ、開発候補地としての検討優先度を提示します。



▲ 画面イメージ
AI を活用し、開発候補地を提示

■三菱地所リアルエステートサービス株式会社との合同セッションを実施

AI の進化により、不動産売買における「探す」「調べる」という業務は大きく変わろうとしています。本セッションでは、不動産業界における地図データと AI の活用をテーマに、ゼンリンが描く「地図データ基盤」の未来と、三菱地所リアルエステートサービス株式会社が進める営業 DX の実践を通じ、売買仲介における意思決定や不動産戦略の進化について議論します。

タイトル	『AI 時代、地図は「意思決定基盤」になれるか ～次世代地図データが拓く不動産戦略～』
時間	14:00～14:50
会場	第二会場
登壇者	・株式会社ゼンリン インフラソリューション事業本部 インフラソリューション営業一部 部長 香川 浩志 ・三菱地所リアルエステートサービス株式会社 流通事業グループ 流通業務部 企画課長 鹿山 良太 ・株式会社 estie エンタープライズソリューション事業本部 事業開発 和田野 祥子

■不動産業界の課題解決に向けたゼンリンの取り組み

不動産業界では、空き家・築古建物の増加などを背景に、用地取得・選定業務におけるデータ活用の重要性が高まっています。一方で、候補用地周辺の状況を把握し、隣接地も含めた開発候補地の可能性を検討するには、多くの時間と経験を要します。

ゼンリンは、時空間データベース※を活用し、不動産業界をはじめ各産業界における課題解決に取り組んでいます。今回の展示では、地理空間情報と AI を組み合わせた用地探索の可能性をご紹介します。

※時空間データベース：

ゼンリンが収集した建物やテナントなどの情報を、位置と時間軸に関連付けて管理するデータベース。現在の状況に加え、過去からの変化を踏まえたデータ活用を可能にします。

■出展概要

展示会名	不動産 DX カンファレンス 2026 (https://conference.estie.jp/2026)
開催日時	2026 年 9 月 11 日(金) 12 時 00 分開始
会場	東京ミッドタウン・ホール(東京都港区赤坂 9-7-1)
ブース番号	④ゼンリン (詳しくは会場内のマップをご確認ください。)
出展内容	・AI を活用した不動産用地探索 ・【参考出展】不動産事業者の BtoB マッチングサービス